

# グロリオサ ‘ミサトレッド’ の養分吸収特性



写真1 グロリオサ ‘ミサトレッド’

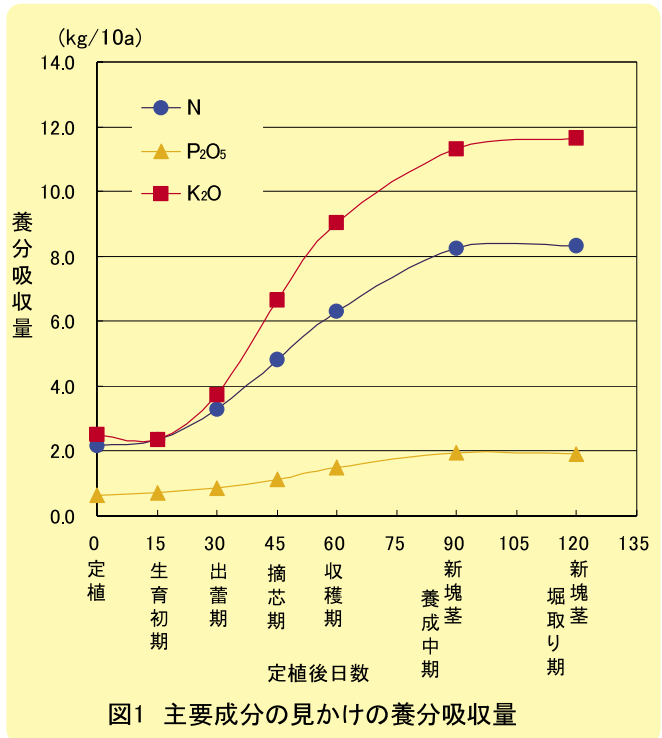


図1 主要成分の見かけの養分吸収量

表1 生育時期別の主要成分の実質養分吸収量及び施肥窒素に対する窒素利用率

生育ステージ	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	MgO	Mn	Fe	Zn
	kg/10a					g/10a		
総養分吸収量	6.2 ( 31 )	1.2	9.1	2.7	1.1	3.7	25.5	5.7
定植～収穫期まで	4.2 ( 21 )	0.8	6.5	1.7	0.8	3.3	20.3	4.1
収穫期～新塊茎掘取り時まで	2.0 ( 10 )	0.4	2.6	1.0	0.3	0.4	5.2	1.6

注) 養分吸収量は栽植密度11,100株/10aで試算。実質養分吸収量は親塊茎からの持ち込み量を減じた値。また、( )内は施肥窒素に対する吸収量の割合(%)

グロリオサの主要産地である高知市三里地区では、オリジナル品種 ‘ミサトレッド’ が栽培されていますが、施肥に対する反応や生育時期別の養分吸収量が明らかにされておらず、生理障害が発生したり、過剰な施肥が行われる傾向にあります。そこで効率的な施肥法を確立するため、本品種の生育ステージ別の養分吸収量を調べました。

その結果、10a当たりの実質養分吸収量（親塊茎からの持ち込み量を除く）は、収

穫期までは窒素4.2kg、リン酸0.8kg、加里6.5kg、収穫期以降は窒素2.0kg、リン酸0.4kg、加里2.6kgでした。またマンガンと亜鉛に比べて鉄の吸収量が多いことがわかりました（図1、表1）。

現在、この結果を基に点滴灌水と液肥を利用し、養分吸収特性に応じた施肥法の検討を行っています。

（土壌肥料担当 岡林美恵 088-863-4915）